

赤穂市総合計画における「将来人口の長期的見通しと目標」について
(赤穂市総合戦略における将来展望人口「人口ビジョン」)

1 現行計画の将来人口の長期的見通しと目標

- (1) 2015年(平成27年)国勢調査人口 48,567人
- (2) 国調結果を反映した国立社会保障・人口問題研究所による「日本の地域別将来推計人口」
 2030年(令和12年) 41,081人 [社人研推計: 2018年(平成30年)]
- (3) 上記(1)(2)をもとに、以下の条件設定①②により推計した将来展望人口は次のとおり
- ① 2040年(令和22年)に合計特殊出生率を人口置換水準の2.07に設定
- ② 2035年(令和17年)までに転出入が均衡となるよう設定

➡2030年の目標人口 **42,000人**
 (令和12年)

【現行の将来展望人口】

	2015年 平成27年	2020年 令和2年	2025年 令和7年	2030年 令和12年
総人口	48,567	45,809	43,877	42,000
合計特殊出生率	1.43	1.43	1.59	1.75
出生数		1,355	1,373	1,379
自然増減		△ 1,675	△ 1,851	△ 1,874
社会増減		△ 1,083	△ 81	△ 3

※2020年の合計特殊出生率は2015年国勢調査の数値で推計

※出生数、自然増減、社会増減は、5年間の累計値

(単位:人)

2035年 令和17年	2040年 令和22年	2045年 令和27年	2050年 令和32年	2055年 令和37年	2060年 令和42年
39,730	37,697	35,838	34,093	32,428	30,865
1.91	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07
1,457	1,545	1,490	1,424	1,409	1,443
△ 2,270	△ 2,033	△ 1,859	△ 1,745	△ 1,655	△ 1,563
0	0	0	0	0	0

2 2021年(令和3年)以降の現状実績(推移)

【現状の実績(推移)】

(単位:人)

	2021年 令和3年	2022年 令和4年	2023年 令和5年	2024年 令和6年	2025年 令和7年	5か年計	【現行計画】 2025年目標値
総人口	45,732	45,078	44,479	43,855	43,218	△ 3,036	43,877
出生数	231	201	202	191	198	1,023	1,373
自然増減	△ 383	△ 449	△ 489	△ 445	△ 461	△ 2,227	△ 1,851
社会増減	△ 271	△ 150	△ 135	△ 192	△ 159	△ 907	△ 81
(うち外国人)	27	48	67	46	54	242	
(外国人除く)	△ 298	△ 198	△ 202	△ 238	△ 213	△ 1,149	

※資料:「兵庫県の人口の動き」(兵庫県)

※総人口は各年1月1日現在、2025年(令和7年)の出生数・増減は直近3か年平均で推計

3 現状実績（推移）と現行計画との比較（5か年計）

- (1) 総人口：5年間で3,036人の減、計画値より1.5%減少
- (2) 出生数：2024年（令和6年）に200人を割り込み、計画値より25.5%減少
- (3) 自然増減：出生数の減などに伴い減少数が拡大傾向にあり、計画値より20.3%減少

出生数は10年前の平成27年が325人で、それ以降は毎年減少し続け平成29年には300人を割り込み、令和6年は191人となっています。一方で、死亡者数は直近4か年平均で約650人となっていることから、自然増減は平成29年以降△300人を、令和4年以降△400人を超え、近年では△500人に迫ろうとしており、自然減が拡大傾向にあります。

- (4) 社会増減：2021年（令和3年）から減少数が縮小傾向にあるが、計画値より1,019.8%減少

社会増減は令和2年が△366人で、外国人の転入増を背景に近年は令和4年が△150人、令和5年が△135人、令和6年が△192人となるなど、年によって減少の幅に大小があるものの、社会減の縮小傾向が続いています。しかしながら、令和6年は社会減が拡大に転じたこともあり、近年の社会減の縮小傾向が今後とも継続し続けるのか不透明な状況にあります。

4 「将来人口の長期的見通しと目標」の見直し（案）

2020年（令和2年）国勢調査人口や直近5か年の現状実績のほか、新たに公表された社人研推計人口、国における『地方創生2.0の「基本的な考え方」』、『人口戦略会議「人口ビジョン2100」』を踏まえ、「将来人口の長期的見通しと目標」を次のとおり見直したいと考えています。

- (1) 2020年（令和2年）国勢調査人口 45,892人

- (2) 2030年（令和12年）の社人研推計人口

現行計画策定時 41,081人 [2018年（平成30年）推計]

現在 39,897人 [2023年（令和5年）推計]
(△2.9%)

- (3) 地方創生2.0の「基本的な考え方」

令和6年12月に決定された地方創生2.0の「基本的な考え方」において、今後、人口減少のペースが緩まるとしても、当面は人口・生産年齢人口が減少するという事態を正面から受け止めた上で、人口規模が縮小しても経済成長し、社会を機能させる適応策を講じていく重要性が示されました。

そのため今後の行政計画では、人口の減少を前提とした、地域の担い手の育成や生活基盤の確保などへの対応が必要であり、現実的な目標人口の設定が求められています。

(4) 人口戦略会議「人口ビジョン2100」

令和4年1月に人口戦略会議より提言のあった「人口ビジョン2100」において、現状のままでは国の総人口が年間100万人のペースで減っていき、わずか76年後の2100年（令和82年）には6,300万人に半減することになることから、総人口が“急激”かつ“止めどもなく”減少し続ける状態から脱し、8,000万人（現在の3分の2まで減少）で安定させる必要性が示されました。

その方策の一つとして、合計特殊出生率を2040年（令和22年）頃までに1.6、2050年（令和32年）頃までに1.8、2060年（令和42年）までに2.07まで向上させることが想定されています。

(5) 条件設定の見直し

- ① 合計特殊出生率については、最終目標に向け段階的な目標を設定し、長期的には2060年（令和42年）に人口置換水準の2.07とし、2040年（令和22年）に1.6、2050年（令和32年）に1.8を目指す
【現行：2040年（令和22年）に合計特殊出生率を人口置換水準の2.07に設定】
- ② 2035年（令和17年）までに転出入が均衡となるよう設定
【現行から変更なし】

⇒2030年の目標 **人口40,000人以上を維持**
(令和12年) **【現行 42,000人】**

【見直し後の将来展望人口】

	2015年 平成27年	2020年 令和2年	2025年 令和7年	2030年 令和12年
総人口	48,567	45,892	42,875	40,246
合計特殊出生率		1.18	1.18	1.32
出生数			974	1,020
自然増減			△ 2,082	△ 2,223
社会増減			△ 935	△ 406

※2025年の合計特殊出生率は2020年国勢調査の数値で推計

※出生数、自然増減、社会増減は、5年間の累計値

(単位:人)

2035年 令和17年	2040年 令和22年	2045年 令和27年	2050年 令和32年	2055年 令和37年	2060年 令和42年
38,078	36,048	34,101	32,194	30,308	28,516
1.46	1.60	1.70	1.80	1.94	2.07
1,163	1,323	1,331	1,182	1,074	1,124
△ 2,168	△ 2,030	△ 1,947	△ 1,907	△ 1,886	△ 1,792
0	0	0	0	0	0

5 現状実績と見直し後の将来展望人口との比較

【現状の実績(推移)】

(単位:人)

	2021年 令和3年	2022年 令和4年	2023年 令和5年	2024年 令和6年	2025年 令和7年	5か年計 a	単年 a/5
総人口	45,732	45,078	44,479	43,855	43,218	△ 3,036	△ 607
出生数	231	201	202	191	198	1,023	205
自然増減	△ 383	△ 449	△ 489	△ 445	△ 461	△ 2,227	△ 445
社会増減	△ 271	△ 150	△ 135	△ 192	△ 159	△ 907	△ 181

【見直し後の将来展望人口】

(単位:人)

	2025年 令和7年	2030年 令和12年 b	単年 b/5	現状値a/5 との比較	単年当たり
総人口	42,875	40,246	△ 526	△ 13.3%	*現状値から減小数が約13%減
出生数		1,020	204	△ 0.5%	*現状値と横ばい R7出生数(推計)より6人増
自然増減		△ 2,223	△ 445	0.0%	*現状値から横ばい
社会増減		△ 406	△ 81	△ 55.2%	*現状値から減小数が約55%減

現状値 a/5 が△値の場合、比較(%)が正数値のときは減少幅の拡大を、△値のときは減少の縮小を示します。

6 現行の将来展望人口と見直し後との比較

【現行の将来展望人口】

(単位:人)

	2020年 令和2年	2025年 令和7年 c	単年 c/5	2030年 令和12年 d	単年 d/5
総人口	45,809	43,877	△ 386	42,000	△ 375
合計特殊出生率	1.43	1.59	0.03	1.75	0.03
出生数	1,355	1,373	275	1,379	276
自然増減	△ 1,675	△ 1,851	△ 370	△ 1,874	△ 375
社会増減	△ 1,083	△ 81	△ 16	△ 3	△ 1

【見直し後の将来展望人口】

	2025年 令和7年 e	単年 e/5	2030年 令和12年 f	単年 f/5
総人口	42,875	△ 603	40,246	△ 526
合計特殊出生率	1.18	—	1.32	0.03
出生数	974	195	1,020	204
自然増減	△ 2,082	△ 416	△ 2,223	△ 445
社会増減	△ 935	△ 187	△ 406	△ 81

(単位:人)

	現行計画d/5・d との		
	単年増減	目標値比較	
総人口	△ 151	△ 4.2%	*現行計画から約4%の人口数減
合計特殊出生率	△ 0.00	△ 24.6%	*現行計画から0.43ポイントの出生率減
出生数	△ 72	△ 26.0%	*現行計画から約26%の出生数減
自然増減	△ 70	18.6%	*現行計画から減小数が約19%増
社会増減	△ 80	13433.3%	*現行計画から減小数が約13,430%増

(135倍)

現行計画 d/5・d が△値の場合、比較(%)が整数値のときは減少幅の拡大を、△値のときは減少の縮小を示します。